# 明治安田生命

## ノスタルジック関西

## 滋賀県

### 重要文化的景観　菅浦の湖岸集落景観

2014(平成26)年、琵琶湖の北端に位置する菅浦が、重要文化的景観に指定された。菅浦は中世には「惣」と呼ばれる住民自らの自治組織が発達、その記録は重要文化財「菅浦文書」として知られていたが、2018(平成30)年に国宝に指定された。村は、琵琶湖岸に築かれた石垣と背後に迫る急峻な山との間に軒を連ねる。現在では茅葺きの余呉型民家はほとんど姿を消したが、東西の四足門は茅葺きを残す。
この村に活気あふれるのが、4月2・3日(現在は4月第1週の土日)の須賀神社例祭(須賀の祭)である。村を出た多くの人たちがこの祭りのために帰省し、3基の神輿(現在は神輿の舁き手不足で1基のみ)を担ぎ、練りまわす。神輿が御供所に帰ると素襖を着けて蓆に列座した神主組の前で御幣を回す「幣祭」、余興の「簀巻き」などが行なわれたのち、氏神須賀神社に神輿から神霊を移し、祭りは終わる。集落景観と古式豊かな祭りが見事に融合する菅浦の景観である。(中島誠一　成安造形大学非常勤講師)

### 重要文化的景観　高島市海津・西浜・知内の水辺景観

海津は、古くから琵琶湖の船運を利用して北陸の物資を京の都へ運ぶ中継港として栄え、江戸時代にはその重要性から天領も置かれていた宿場・湊町です。その面影は現在も海津の琵琶湖岸に続く石積みや橋板に見られ、昔の街道沿いには当時から続く琵琶湖の鮒を使った伝統の鮒ずしの店や醤油屋、造り酒屋が並び、当時の面影を残しています。また、多くの人が行き交った宿場町には伝承や逸話も多く、海津にあった大きな旅籠「池田屋」の化け猫の話や、日本舞踊の「近江のお兼」のモデルとなった「怪力お兼」の話などが伝えられています。周辺には多くの社寺があり平安時代からの千手観音、十一面観音なども残り、遠い昔の繁栄を偲ぶことができます。
この地域を含む琵琶湖の水文化のストーリーは、「琵琶湖とその水辺景観 ～祈りと暮らしの水遺産～」として日本遺産にも認定されています。(谷口良一　森林インストラクター、森林セラピスト、自然公園指導員)

### 重伝建地区　近江八幡市八幡(商家町)

近江八幡は、近江商人の商人屋敷の町並みが残る町である。古い町並みのある近江八幡の中心地は、JRの駅から北西約2kmにあり、駅から歩くには不便と思われてしまう。また名神高速道路からもかなり離れている。しかし、この不便さが古い町並みを現代まで残してくれたといえる。鉄道や高速道路から離れていたことが、伝統的な建築物や町並みの風景を保存するのに良かった。
1984(昭和59)年に、日牟禮八幡宮の鳥居前に立つ白雲館を初めて訪れた。白雲館は、1877(明治10)年に、八幡の

町衆の多額の寄付によって建てられたかつての八幡東学校で、木造バルコニーやエンタシス風の柱があり、前面左右に小部屋の突出しがあったが、屋根がくずれ落ちていて、壁も無残にはがれ、痛々しい建築物であった。これは保存修復すべきだと直観的に思った。現在の修復建物は、屋上に創立当時の太鼓楼も復元した美しい擬洋風校舎となっている。
左義長祭りで有名な日牟禮八幡宮は、鳥居から入ってすぐ八幡堀を渡る。八幡堀は今は綺麗な堀で、テレビや映画のロケ地にもなって観光客も多い。石畳の掘割沿いを歩くと、誰もが古き時代の歴史を感じることができる。(木全清博　元滋賀大学教授)

### 重伝建地区　大津市坂本(里坊群・門前町)

穴太衆積みの石垣を有する寺院群の静かなたたずまいの町並みが、緩やかな登り道に展開している。その町並みの凛としたたたずまいは、とりわけ中世以来の日本における仏教界を常に牽引してきた比叡山坂本の里坊群の持つ、ある種のプライドと緊張感を感じさせる空間である。そのためいつ訪れても、自分自身も精進を怠ってはならないと意識させてくれる、気合を入れたい時に訪れたい町並みである。(北野信彦　龍谷大学教授)

滋賀県ではほかに、余呉町柳ケ瀬、彦根市河原町芹町(商家町)、東近江市五個荘金堂(農村集落)、瀬田の唐橋、大津百町などをご紹介しています。

## 京都府

### 重伝建地区　伊根町伊根浦(漁村)

伊根の舟屋、けっこう有名になりましたが、ずっと以前に調査に入ったことがあります。整然と並ぶ、船のいわば倉庫群です。その内側の狭く細い道路、今はバイパスができてほとんどの人はここを通りませんが、ぜひ通ってみたいものです。そこにはこの地域の暮らしが息づいていて、多少の後世の手は加わっていますが、幸い町並みは古い時代のままです。
対岸の小高いところに展望台ができていて、そこから湾内の舟屋が見渡せますが、船が舟屋の外側に係留されていることに注意ください。舟屋は昔のままなのですが、船が近代化してずいぶん大きくなり、舟屋に入りきらないので、いってみれば路上駐車しているわけです。でも舟屋は以前どおりに守られているのです。ここに暮らす人たちが、いかに自分たちの歴史の歩みを大切にしているかがよく分かります。(井上満郎　京都市歴史資料館長・京都産業大学名誉教授)

### 重伝建地区　南丹市美山町北(山村集落)

世界遺産・白川郷ほどの知名度はないものの、美山かやぶきの里は地域で有数の観光地になってきた。白川郷の合掌造りに対して、美山は築150年から200年という入母屋造りの民家群で、濃緑色の杉林と溶け合った景観は、一幅の絵になる。
数年前の秋、俳人ら中高年の男4人で現地を訪れた。一行のひとりが別荘として所有する古民家に1泊して盃を重ねながら、「日本の原風景とは何か」で談論風発。旧鯖街道のたたずまいや、古民家を活かした民俗資料館、美術館も見応えがあった。ただ、田舎生まれの私としては、古民家保存に不便や苦労はないのか、とも思った。美山のような美しい景観を末永く保存していくには、観光気分で楽しむだけでなく、地元の人々の暮らしにも想像をめぐらせる必要があるのではないだろうか。(時岡禎一郎　大阪府男女共同参画推進財団評議員)

### 浄福寺通り

5年ほど前の晩秋の夕景。大徳寺近くでの所用を終え、北野天満宮の南に勤める知人を訪う心算であった。時間に少し余裕があったので、歩くことにした。さしたる距離ではない。西へ、南へ、それだけを頭に歩いた。どの道を通ったのか定かではないが、訳もなく懐かしく感じる一角に出た。仁丹提供の町名表示板に「上京区浄福寺通寺ノ内下る大黒町」とある。どうやら通りの名は、浄福寺通りというらしい。郷愁は、美しい石畳に拠るのだろうか、あるいは町家の表構えだろうか、快いリズムの機織りの音だろうか。初めての道なのに、奇妙な懐かしさである。あとで知人に尋ねると、そこはドラマやスチールの撮影場所として有名だとのこと。すされば、テレビやポスターで観たことがデジャブの、ひいては懐かしさの所以なのだろうか。再訪の機会は、まだない。(川口壽夫　編集者・桃蹊舎代表)

### 日本遺産　京都と大津を繋ぐ希望の水路　琵琶湖疏水　～舟に乗り、歩いて触れる明治のひととき～

南禅寺の水路閣、蹴上のインクライン、赤レンガの蹴上発電所。明治維新後の京都復興の夢を賭けた130年も前の一大プロジェクトであった琵琶湖疏水。人気の水路閣も好きだが、圧倒されるのは蹴上発電所と水圧鉄管、インクライン廃線跡だ。
2020(令和2)年の秋、買物に出た最寄りの駅で、京都－大津を往復する「琵琶湖疏水通船 復活」のパンフレットを見つけた。疏水マップを見ながら、京都地下鉄蹴上駅近くから乗船して、第3トンネル ― 第2トンネル ― 諸羽トンネル ― 第1トンネル ― 大津閘門と、水を滑る船を追いかける。タイムトンネルをくぐり抜けて先人の夢のかたちを巡るような感覚に、乗船したい、遊覧したい、と気持ちは逸る。秋季の乗船カレンダーには感染症対策も記載されていたが、老夫婦の船旅だから躊躇してしまい今回は断念。コロナ禍の長いトンネルをくぐり抜けた先、次の春を待って桜や菜の花のころにノスタルジックな水への旅に出かけたい。(寺田　操　詩人・コラムニスト)

京都府ではほかに、舞鶴赤れんがパーク、京都市上賀茂(社家町)、京都岡崎の文化的景観、京都市祇園新橋(茶屋町)、伏見の町並み、大山崎山荘などをご紹介しています。

## 大阪府

### 安威の家並み

わが国の地名辞典の筆頭に記載されているのは、大阪府茨木市「安威(あい)」である。安威は京都・大阪のほぼ中間点、北は丹波や能勢につながる位置にあり、古くは在地の豪族安威氏によって開発された。近世に入ると上級旗本や遠国大名の飛び地として細分支配されるが、実際の町政は現地の住民の労力と才覚によって進められた。大坂や京都といった大消費地に近く、安威川が淀川につながる舟運の便や、西国街道・亀岡街道・能勢街道などの陸運ルートに恵まれた安威の町場は、在郷商人によって繁栄し豊かになったのである。
明治になると、京都・大阪間に鉄道が開通したが、安威は鉄道ルートから外れ、汽車という文明の利器に浴することができないまま今に至る。そのため安威の集落には、亀岡街道に沿って昔ながらの重厚なナマコ壁の蔵や、ベンガラ塗りの町家の立派な建物がひっそりと軒を並べている。商売繁盛の残り香が漂っているのは、貴重な歴史の遺産であろう。(宇田　正　追手門学院大学名誉教授)

### 三休橋筋のガス燈

御堂筋から東へ向かって3本目の筋が三休橋筋です。船場地区の中心部を南北に走り、北の終点は、栴檀木橋を渡って大阪市中央公会堂へとたどり着きます。道路沿いには、ちょっとおしゃれな店舗やレトロな建物が集まっています。この三休橋筋では、街灯のガス燈化と電線の地中化が進んでいます。夜になると、電気の街灯とはまた違う、暖かい雰囲気を味わえます。まさに、ノスタルジックな景色を再生しているといった感じの道路なのです。
すでに、本町通りから土佐堀通りの間まで、その雰囲気を楽しめます。ガス燈は24時間昼間も点きっぱなしで、大阪市民としては、ちょっと節約できんかなと感じてしまうのですが、夜の素晴らしい光景を見ると、まあええかと思ってしまうのです。(古山喜章　経営コンサルタント)

### 浮世小路

道頓堀に「大阪の昔ロマン」を味わわせてくれる小路があります。この小路はとても狭く、中にはいくつかの提灯が並んでいます。初めての人は「ここにお店?」と思うほど分かりにくいため、道頓堀に面しているのに人通りも少ないのです。
そんな小路に足を踏み入れると、大正ロマンや昭和レトロが溢れています。法善寺横丁にあった吉本興業の小屋「花月亭」、昭和40年代ロカビリー、タイガース、和田アキ子さん等が出演されたジャズ喫茶「ナンバー番」、そして日本を代表する音楽家で大阪出身の服部良一先生などが常連だったという「今井楽器店」などの風景が、小路の両側に飾られています。ノスタルジックな雰囲気が大好きな私には、たまりません。(吉本真樹　フリーアナウンサー)

### 水郷の里　御領

水郷といえば潮来、佐原、近江八幡、倉敷、柳川などが思い浮かぶが、この水郷の里御領は、そんな大それたものではない。それでも御領橋から見る景色には、ノスタルジーを掻き立てる何かがある。20年前に訪れた時、この

水路にはまだ田舟が浮かんでいたのを覚えている。水路沿いの段蔵や船着き場の石組などの土木景観も素晴らしい。
御領村は旧深野池堤防の西側に位置し、低湿地のため井路(用排水路)が縦横に走り、三枚板と呼ばれる農業用の田舟が活躍していた。昭和40年頃までは稲作と蓮根栽培が盛んな土地柄である。土地区画整理事業により水路がその水源の寝屋川と分断されると水質の悪化が進んだが、住民は水路沿いの古く懐かしい町並み風景を残したいと立ち上がった。2004(平成16)年から4年間にわたる「御領水路環境整備事業」により、鴻池下水処理場からの送水管敷設工事を経て、親水性のある御領水路復活と水辺空間の創造を実現し、その管理は府のアドプト制度の下、住民自らが行なっている。(中原文雄　建築工房日想舎舎主)

### 重伝建地区　富田林市富田林(寺内町・在郷町)

富田林寺内町は、大阪府唯一の重伝建地区で、町の南北中央を貫く城之門筋の町並み景観は、日本の道百選にも認定されている。寺内町は室町時代の永禄年間(1558～1570年)、浄土真宗興正寺の証秀が、富田の芝とよばれていた地に、興正寺別院を中心に町割りを計画したものである。町内は南北6筋、東西7町の道路で区画し、周囲は土塁を巡らし、自治的都市の様相を持っていた。
私の叔母が、城之門筋の興正寺別院とその東側の浄土真宗本願寺派の妙慶寺に接する地で、戦前から小さな帽子屋を営んでいた。今でこそ、富田林市富田林町という地名であるが、この地が大正・昭和初期の大阪市のメインストリートであった堺筋から延びた幹線道路ということで堺筋とも呼び、今も堺町が通称として残るように、銀行や商店などが立ち並ぶ富田林随一の賑やかな町だった。子どもの頃から日常的に叔母宅で遊んだので、同じ町内の田守家、仲村家、葛原家、田中家などへも、叔母や従兄たちとよく行った。明治時代の明星派歌人として活躍した石上露子の実家として公開されている旧杉山家もその一つである。
町筋の道と道は「あてまげ」と呼ぶが、半間ほど道をずらし、防御のために見通しを妨げている。その石畳を歩きながら、虫籠窓や煙出しを持つ白壁の景観を楽しんでいる。私の知人の元校長先生夫婦が移住して寺内町センター近くで開いたランチアンドカフェで一息つくのが、至福のひとときである。(西田孝司　松原市社会教育委員長)

### 重要文化的景観　日根荘大木の農村景観

関西国際空港の対岸、泉佐野市大木地区は、鎌倉時代末期から戦国時代にかけて存在していた九条家領日根荘の故地である。日根荘は、天福2(1234)年、前関白九条道家が、和泉国日根郡日根野・鶴原の荒野を開発したことで成立した。全国に荘園は数多くあるが、日根荘は特別な荘園の一つといっていい。それは戦国時代、文亀元(1501)年、前関白九条政基が当地に下向したことによる。政基はおよそ4年間にわたって在荘して直接支配を行ない、在荘記録を残した。その記録が「政基公旅引付」(以下、「旅引付」)である。「旅引付」は、普段は在京して中央政界で活動している最上層の公家が自家荘園に下向して実際に経験した農村の姿、人々の生活の様などを克明に記した、第一級の史料である。私たちが大河ドラマなどで目にする戦国時代の人々の生活の様子は、「旅引付」の記事が基盤となっている。
その「旅引付」の記述の舞台となったのが日根荘故地であり、重要文化的景観であると同時に、わが国で初めて国史跡に指定された荘園遺跡でもある。政基が在荘した500年前と全く同じではないにせよ、棚田が広がり、寺院や神社、灌漑池や用水など、荘園を構成した要素・痕跡が残っている。開発時に作成されたと考えられる「日根野村絵図」(いずれも宮内庁書陵部蔵)に描かれた景観を確認することができる。
近年棚田は、日本の伝統的景観としてさまざまな媒体の取り上げられることが増えた。かつてこの地から学んだ者からすれば、うれしい限りだ。一方で圃場整備の実施といった動きもあった。日根荘故地は、歴史的景観(歴史学的な資料の一つ)というものは、時代による人々の価値観によって変化するというノスタルジーへのスタンスの取り方を考えさせられる場でもある。(古野　貢　武庫川女子大学准教授)

大阪府ではほかに、能勢の里山、千林商店街、船場、築港赤レンガ倉庫、飛田新地、阪堺電車、堺市街、犬鳴山などをご紹介しています。

## 兵庫県

### 重要文化的景観　生野鉱山及び鉱山町の文化的景観

生野銀山は大同2(807)年に開坑され、天文11(1542)年から銀や銅を産出した。幕府直轄として栄えた後、宮内庁所属を経て三菱へ払い下げられ、1973(昭和48)年の閉山まで約1200年続いた。坑道の総延長は350kmで、まっすぐ伸ばせば静岡まで到達、深さは880mというスケールで、70種の金属が内蔵されていると言われている。
現在の生野銀山は、往時を再現した観光スポットになっている。市川沿いには、鉱石を運んだトロッコ軌道跡が残されていて、レールを踏み歩けば、水音とともに車輪の軋み音が聞こえてきそうだ。選鉱後の鉱石は馬車で姫路まで運ばれたが、その「銀の馬車道」も残されている。(逢坂御堂　メディアプロデューサー)

### 中世の環濠都市、近世の宿場町

宝塚市小浜は、有馬街道・京伏見街道・西宮街道が通る交通の要衝だ。15世紀末、浄土真宗の毫摂寺(小浜御坊)が建立された際、周囲三方を大堀川が迂回する地形を利用して城塞化。この寺内町は戦国時代の自治都市として発展していった。江戸時代には立地を活かして小浜宿となり、脇本陣・旅篭・木賃宿・商家・馬借などが林立。名水「玉の井」を使用した酒造が発達し、大工の集団「小浜組」も結成された。
根津甚八主演のテレビドラマ『幻の町』で紹介されたことのある小浜には、中近世からタイムスリップしたかのような趣ある町並みが今なお残されている。歌劇の街のすぐそばに、500年を優に超えた歴史的風景が展開されるのは奇観というべきであろう。(河内厚郎　文化プロデューサー)

### 重伝建地区　神戸市北野町山本通(港町)

六甲山系南側の斜面地に、東西に山本通、山麓線、南北は現在の北野坂、ハンター坂、トアロードの基幹となる街路がある。街区内は、かつて圃場であった当時の畦道や里道が生活道路となっている。こうした緩いカーブを描く街路に沿って、石垣や生け垣、板塀が続く心地よい空間が続く。地区内の商業施設には、こうした生活道路への

接続を意識したものもある。
現在、重伝建地区内には、二つの重要文化財(旧トーマス住宅、小林家住宅)を含めて31ヵ所の異人館、和館の伝統的建造物がある。かつては観光業者に貸し出されて、公開されていた施設の中には、阪神・淡路大震災後に居住用に戻ったもの、写真館や婚礼会場に用途が変更されているものもある。(中尾嘉孝　全国町並み保存連盟理事)

### 有楽名店街

神戸元町に地下街がある。その名は「有楽名店街」という。「名店街」というよりも「迷店街」の方が似合うかもしれない。もろ昭和レトロの雰囲気がプンプン。人を案内すると「えっ、こんなところにスナック街があったの」と驚かれる。
阪神電車元町駅は地下なのだが、地上に出るのをちょっと待って奥に足を向けると、ハーモニカ横丁的な通路が二丁にわたって駅の東西改札口を結んでいる。私の知るところでは戦後間もなくから営業していて、地下なので大震災の影響も免れた。元町の人々はもちろん、県庁や県警、港の船員や労働者で賑わった。大震災後、一時アニメ歌手の水木一郎も手伝い、ゲイバーが出店した記憶がある。
5～6年前から立ち退き問題が起き、かなりの店が退去・閉店、2020(令和2)年11月時点で営業している店舗は14軒。現在も係争中で居残り頑張っている。老朽化した排水管や電気系統の問題があるが、阪神電鉄は英知を働かせて、レトロな雰囲気と人情味が溢れ、演歌が似合う有楽名店街を存続してもらいたいと願う。(かどもとみのる　神戸港を考える会代表)

### 平福

その町の時は止まり、静か。かつて姫路と鳥取を結ぶ因幡街道の宿場町だった佐用町平福。江戸時代には川船が行き来して物資が運ばれた佐用川沿いの平福の川端には、土壁と石積の上に家が建つ。平福は母の故郷。近年、「佐用の朝霧」と言われ有名になった山城の利神城は、霞の上に浮かんでいるように見えて雲突城と言われたそうだが、母にとっての城跡は遊び場だった。
平福は室町時代以来の利神城を核とした城下町であり、宿場町であった。その名残は濃厚にある。明治に入って鉄道駅が江戸時代の中核地であった「平福」から外れ、人々の往来が減ったことが江戸時代の空気を残すことになる。鳥取藩の平福本陣跡、宮本武蔵の決闘の場跡、数多くの社寺、平福には今も昔がある。(池永寛明　大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所顧問)

### 重伝建地区　たつの市龍野(商家町・醸造町)

平成の大合併で市の名前が「たつの市」と平仮名に変わったが、私は旧中心部で今も当然のように使われている“龍野”という呼び名の方が、風格があって好きだ。揖保川に沿い、鶏籠を伏せたような山の麓にあたる狭い範囲に、見所がぎっしり詰まっている。古い城下町の風情を残す“播磨の小京都”、三木露風作詞の赤とんぼに象徴される“童謡の里”、揖保川の清流に育まれた“手延べ素麺の町”、さらに和の料理に欠かせない“淡口醤油”誕生の地など、いろんな要素が相まって落ち着いた町並みを形成している。
これらをキーワードに町歩きを始めると、すぐに目に飛び込んでくるのが、古い商家や屋敷群、黒々とした醤油蔵、そんな中に違和感なくすっきりと収まっている洋館がある。これはヒガシマル醤油の旧本社社屋を活用した「うすくち龍野醤油資料館」。ここには旧来の醤油の製造工程が分かるよう、江戸時代からの醸造用具が展示されている。入館料は10円硬貨たった1枚だが中身は濃い。さらに別棟の醤油蔵を改装したギャラリーには、爆発的人気を博した「ベルばら」でオスカルを演じた榛名由梨の祖父・山下摩起の作品が並んでいる。摩起は大阪・四天王寺の五重塔内部に勢いのある仏画を遺す有馬生まれの孤高の画家である。一見の価値あり。
散策で小腹がすけば、素麺を食すもよし、土・日なら龍野公園にある聚遠亭でお茶の振る舞いを受けるのもいいだろう。お土産には名物・醤油饅頭や鮎最中がお薦めだ。(三上良樹　元NHK記者)

兵庫県ではほかに、城崎温泉街、豊岡市出石(城下町)、銀の馬車道、丹波篠山市篠山(城下町)、伊丹市郷町、旧外国人居留地、モトコー、室津などをご紹介しています。

## 奈良県

### 暗峠～紋次郎が出てきそうな雰囲気

生駒山系の大阪府と奈良県の境、暗越奈良街道にある標高455mの峠。「暗」を「くらがり」と読ませるところがニクイ。この街道は「日本の道100選」に選定されています。石畳が敷かれた長さ50mほどの道沿いに家屋が数棟並んでいます。いかにも街道筋の集落といった感じ。ハイキングでこの峠に到達すると、木枯し紋次郎(古いですね!)が向こうの方からひょっこり姿を現してきそうな気がします。よく茶店で休憩しましたが、今でも営業しているのでしょうかね。
小学校5年生の時だったと思います。元旦、ぼくと父親、兄の3人で暗峠を経て生駒山頂までチャレンジしました。途中、急に靄が出てきて視界が極度に悪くなり、言いようもない不安に包まれたんですが、突如パッと視界が晴れ、目の前に現れたのが暗峠の集落。まるで映画のワンシーンのようで、異常なまでに感動しました。テレビで『木枯し紋次郎』が放映される前だったので、残念ながら、その時紋次郎は出現しませんでしたが……。(武部好伸　エッセイスト・作家)

### 奈良町

奈良市の旧市街地奈良町は1200年の歴史を歩み、平城京遷都のおり、外京に移された世界遺産・元興寺の門前町が原点。平城京の条坊の町割りで間口が狭く、奥行きの長い町家が軒を揃えて並ぶ。近世には商業都市として繁栄するも、戦後の高度経済成長期に風化。市民団体が保全再生をめざして40年に及ぶ活動を続け、1989(平成元)年に、奈良町博物館都市構想を提案。1994(平成6)年、奈良市は景観に調和した町家のファサード(建物の正面デザイン)の修理修景に補助金を出す「奈良町都市景観形成地区」を指定。古い町並みが大好きな私も、設立当初からの会員。市民と行政のパートナーシップで町が美しく甦り、賑わいを取り戻した。(黒田睦子 (公社)奈良まちづくりセンター顧問)

### 重伝建地区　橿原市今井町(寺内町・在郷町)

環濠跡が一部残る東西約600m、南北約310mの地区内は、760戸のうち約500戸(うち国の重文9件)が江戸時代などの古民家。地区内の伝統的建物としては全国一の数を誇る。昔懐かしい風情が漂い、1993(平成5)年に重伝建地区に選定された。戦国時代の寺内町が発展し、江戸時代に豪商らが町を運営する自治都市、商業都市として栄えた。敵から防御するため、見通しのきかない屈折した道。2階の白壁には意匠を凝らした「虫籠窓」。玄関付近に牛馬をつないだ金具「駒つなぎ」が残る。
3年前、町づくりに興味をもつ友人を案内し、落ち着いた風情を絶賛。公開されている元豪商宅で観光客が昔の生活を体験していた。説明するガイドの顔は誇らしげだ。散策中、道を掃くお年寄りや主婦を見た。時代が変わろうとも、この町に愛着を持ち、これからも守っていこうという住民の心を知った。戦後長く、保存と開発は対立するものと捉えられてきたが、ここでは保存することが新たな地域開発、町の創造につながったように思えた。(山口安昭　前泉大津市文化フォーラムマネジャー)

### 重伝建地区　宇陀市松山(商家町)

宇陀松山は、南朝方の武将・秋山氏の城下として端を発し、その後、豊臣秀長の配下の大名が転々とした。江戸時代になり、織田信長の子・信雄が入封、元禄期まで織田家の陣屋が置かれ、宇陀松山藩3万石の城下として栄えた。「宇陀千軒」とも称された町並みが今も残り、特にうだつや虫籠窓、格子窓や犬矢来(いぬやらい)などを有した個性的で伝統的な建物が多く、重伝建地区に選定されている。
『水戸黄門』の「助さん」のモデルとされる佐々宗淳(通称介三郎)は、幼少期を宇陀松山で過ごしたという。宗淳が生まれたばかりの頃、父親の佐々直尚が宇陀松山藩2代目藩主・織田高長(信雄の五男)に迎え入れられた。宗淳は15歳の時、京都妙心寺に入門、還俗後、水戸光圀に仕え、『大日本史』編纂の史料採集に尽力した。父の直尚の墓と位牌が保存地区内にある法正寺に残っている。宇陀松山は助さんの古里でもある。(上島秀友　日本ペンクラブ会員)

### 重伝建地区　五條市五條新町(商家町)

慶長13(1608)年、松倉重政が二見城主としてこの地に封じられました。城のある二見は、中世から成立していた町場の五條とは離れていたため、この二つの地域を結ぶために松倉が成立させたのが新町です。新町通りは、吉野山系と紀州を結ぶ吉野川(紀ノ川)に並行するように伸び、吉野から木材を運ぶ筏師たちや、街道を往来する旅人のための宿、付近から集まる人々相手に品物を売り買いする店など、およそ100軒の立ち並ぶ伊勢街道へと発展します。元和2(1616)年、松倉重政は肥前・島原藩に移り二見城は空城となりますが、町は住民の手によって大切に守られました。
五條新町には、建築年代の分かる民家では日本最古の建物と言われる、慶長12(1607)年の棟札の残る重要文化財「栗山家住宅」をはじめ、質の高い伝統的建造物が多数残されており、2010(平成22)年、重伝建地区に選定されました。(川村優理　登録有形文化財「藤岡家住宅」管理法人NPO法人うちのの館館長)

奈良県ではほかに、生駒ケーブル、奈良きたまち、大和の環濠集落、竹内街道・横大路、八木札の辻、高取土佐、吉野などをご紹介しています。

## 和歌山県

### 雑賀崎

2007(平成19)年、和歌山青年会議所の創立50周年記念として、雑賀崎を舞台にした映画が制作され、その脚本を書かせていただきました。故夏八木勲さん、故大杉漣さん、大方斐紗子さん、原田貴和子さん、高田聖子さん、中村静香さんなどにご出演いただき、夏八木さん、大杉さんには直に脚本を持って伺い、出演をお願いしました。お返事をいただくまでの1週間は、緊張のあまり食事も喉を通らない状態でしたが、「この作品なら、ぜひ出させていただきたい」とのお返事をいただいた時の喜びは、今でも忘れられません。
雑賀崎にはシナリオハンティングで何度も訪れ、早朝の海の香、波や風の音からイメージを湧かせ、ここに暮らす方々の声から物語に色を付けていきました。ご家族が代々漁師という、赤ちゃんを抱っこされた20代の若い女性に話を伺う中で、「毎日、無事に帰ってくれることだけを考え、願っている」と話された言葉の重みが、今も強く心に残っています。日本のアマルフィと称される景色の背景には、生死をかけて海と戦う男たちと、無事の帰りを祈り待つ女たちの暮らしがあります。「すり鉢状になっているのは、どの家からも空と港の様子が一目で分かるように」と教えてくれた、漁協組合長の笑顔が懐かしい。(大安佐智　文筆家)

### 重要文化的景観　蘭島及び三田・清水の農山村景観

あらぎ島。島とはよく言ったもので、川が蛇行し半島のように突き出している様は島である。あらぎ島の棚田は本当に立派である。棚田は見事に管理され、田一枚も休耕田になっていないと聞き、維持管理に非常に努力されているのが窺える。また、町の活性化のために四季折々に演出され、いつ訪れても満足してもらえるよう努力されているのには敬服する。
しかし、ちょっと目障りなのは、2006(平成18)年に敷設された、棚田の南を通る県道480号線のバイパスである。旧道は幅員が狭く、U字状に道路が迂回しているので、やむなく直線のバイパスを敷設したのだと思うが、折角の文化的景観が人工的な高架橋で半減している。設計時に高架橋の高さを抑え、橋脚に並行して常緑樹の高木を定植するなどして、遮蔽の工夫がなかったかと惜しまれる。(中川哲男　日本動物園水族館協会会友、元天王寺動物園園長)

### 重伝建地区　湯浅町湯浅(醸造町)

醤油の町として栄えた和歌山県湯浅町。往時の面影を残す一帯は重伝建地区として守られていますが、メイン通りを少し外れた小路の角にも懐かしいスポットが。幕末から昭和まで続いた公衆浴場「甚風呂」が銭湯跡歴史資料館として公開されているのです。暖簾をくぐり、まず目につくのが番台。使い込んだ手すりはツルツル、座ってみると

右は女湯、左は男湯、なかなかの見晴らしです。浴場にはお洒落なタイル、浴槽の縁は御影石。壁には昭和30年代の映画ポスターや広告看板が掲げられ、ワクワクが増幅されます。浴場の奥、住居だった主屋には振り子時計、蓄音機、火鉢に卓袱(ちゃぶ)台、長持(ながもち)、アルミのアイスクリーム製造機などなど昔の生活用具がずらりと並んで、思わず「これこれ!家にあったよねぇ」と盛り上がったり。今はお湯には浸かれませんが、あったかい思い出に浸れるスポットです。(木村真弓　フリーアナウンサー)

和歌山県ではほかに、ぶらくり丁商店街、黒江、広川の防災遺産、熊野古道などをご紹介しています。

Copyright Meiji Yasuda Life Insurance Company All Rights Reserved.